

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告

計 画	背景・現状・課題の詳細	【課題設定】 既存の学力補充にとどまらず、児童が自ら選んで挑戦したいこと・探究したいこと、調べ尽くしたいことに没頭し、学び本来の愉しさを満喫できる環境を創出し、生涯学習につながる学習体験を経験知として蓄積させる。 「人生100年時代」を見通し、15歳までの義務教育期とCSの学びを終了した後の、残り85年の生涯学習に接しうる学びの環境として整備する。
	課題の解決のために 令和7年度に実施する具体的な取組	地元企業家たちが先行実践的に複数校のらんさぼにプログラミング教室を開催した。生涯学習的ビジョンとして知的関心のアンテナを広げるチャンスを提供した。児童・保護者の好意的評判が生まれ、さらに広げる余地と可能性をつかんでいる。
	左記具体的な取組のうち、令和6年度における 取組の評価・分析を踏まえた取組	地域の若手企業家や教職経験者等が学習支援員の一翼を担い、児童個々の知的関心に寄り添いながらも、地域社会・未来社会を見通す協働的な学習意欲の形成に関与しうる講座等を設える。
	本事業で達成する目標 (アウトカム)	「らんさぼ」は、市内すべての児童に開かれた学びのサードプレイスであり、CS活動を通じて地域住民・地元企業・青年層等との学びを通じた交流と自己発見のチャンスとして設定している。 したがって、「自ら選択して学びを深めることが楽しい」と実感する児童の意識及び姿を創出することを目標とする。
	目標の達成度を 測る指標	「自ら選択して学びを深めることが楽しい」と実感する児童の意識変容等
	現状の数値	60
	単位	%
	本年度の目標値	80
実 績	本年度の実績値	70
	アウトカムの達成度に関する評価・分析 (事業における成果、課題、改善点等)	利用児童から、「らんさぼで学ぶことで学校の授業に自信を持ちたい」「勉強がわかりたい」というニーズが、子供たちの選択肢として明確に発信されるようになったことが令和7年度の取組の特徴になった。 利用児童のアンケートによれば、追跡指標の「自ら選択して学びを深めることが楽しい」70%の細部に相当する「勉強がわかる」57%、「勉強が楽しい」50%という数値とともに、「らんさぼがすき」95%、「もっとらんさぼの日数を増やしたい」と意見する児童も見られるようになったことは、取組蓄積の評価と受け止めている。 しかしながら、個々の児童の希望に寄り添ったメニューにウエイトをかけつつも、らんさぼ本来の目的である自分が挑戦したいことに没頭できる場所としての利活用もさらに促していきたい。